

中学校・道徳の内容項目の解説

公德心・社会連帯

●中学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕
(2) 公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。	公德心・社会連帯

●解説

全体的な理解	<p>公德心は、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にできる心である。この公德を大切にできる心が、一人一人の日常生活の中で具体的に生かされることで、住みよい社会が実現できる。また、社会生活においては、一人一人が共に手を携え、協力しだれもが安心して生活できる社会をつくっていかうとする社会連帯の自覚は欠かすことができない。この社会のすべての人々が、自分も他人もともどもによりよく生きようとしていることを自覚することから、互いに助け合い励まし合うという社会連帯の自覚も出てくる。社会全体に目を向けるとき、個人の向上と社会の発展とが、矛盾しないような在り方が求められ、よりよい社会の実現に向けた個々の努力が日々積み重ねられることが必要となる。</p>
発達的な観点	<p>中学生になると、体の不自由な人へのいたわりある行動や社会福祉施設などのボランティア活動に共に取り組むなどよりよい社会の実現を求める気持ちが強くなっていく。その反面、社会における人間関係の希薄化が生み出した他に対する配慮を欠く風潮の影響からか、公の場で、意識するかしなにかにかかわらず自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。また、既成のものに対する反発が出てくる年代ではあるが、本来自己中心的で自分勝手な言動を良くないと思う心が内面には十分あり、だれもが望むよりよい社会の実現については大人より純粋に考えることもできる。</p>
指導の着眼点	<p>指導に当たっては、生徒一人一人に自分も社会の一員であるという自覚を深めるようにして、互いに積極的に協力し合おうという意欲を育てるように工夫することが大切である。また、よりよい社会を実現するためには、社会生活を営む上で必要とされる約束やきまりを重んじ、また、社会生活において互いに迷惑をかけることのないような行動の仕方を身に付けるとともに、自他への配慮と深い思いやりを大切に、進んで社会とのかかわり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる必要がある。</p>

文部科学省「中学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年9月）より

■参考：小学校学習指導要領（平成20年3月）

4 主として集団や社会とのかかわりに関すること	〔一般的な呼称例〕	
低学年	(1) 約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にする。	規則尊重・公德心
中学年	(1) 約束や社会のきまりを守り、公德心をもつ。	規則尊重・公德心
高学年	(1) 公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にし進んで義務を果たす。	公德心・規則尊重・権利義務